

関まどか助教（農学部共同獣医学科）が資生堂女性研究者サイエンスグラントを受賞

Madoka Seki, Research Associate (Department of Veterinary Medicine), Wins the Shiseido Female Researcher Science Grant

資生堂女性研究者サイエンスグラントは指導的研究者を目指す女性研究者を支援する研究助成で、自然科学分野の幅広い研究テーマ（理工科学系・生命科学系全般）を対象に、毎年 10 名の女性研究者が選ばれてきました。第 9 回となる今回、このグラントを、本学の関まどか助教（農学部共同獣医学科）が岩手県内で初めて受賞しました。受賞研究テーマは「シナプトネマ複合体に着目した単為生殖型肝蛭（かんてつ）の生殖様式の解明」で、肝臓の寄生虫「肝蛭」が体細胞分裂だけで子孫を残せるのかを調べるための研究です。7 月 26 日、岩渕学長と菅原理事への受賞報告（写真上）と、プレスリリース（写真下）が行われました。岩渕学長からは「本学の女性研究者がこのような賞を受賞することは喜ばしい。昨年度的女性教員在職率の目標 13%は達成したが、やっとクリアできた状況であり、いろいろな意味で、今後女性研究者になろうという人をどう増やしていくかが課題である。関先生のようなロールモデルが増えてくれば、女性研究者への道のハードルを低くすることができる、また、そういった雰囲気を作っていくことが大学内でも重要であると考えている。」とのコメントがありました。



今回の受賞について、関まどか助教にお聞きしました。

一 受賞の感想をお聞かせ下さい。

助成金の使用用途がベビーシッター代に及ぶことなど、女性の視点で研究者を支援してくださる素晴らしい賞を頂いたと感じております。受賞式典で全く分野の異なる女性研究者と知り合うことができ、交流の幅が広がっただけでなく、たくましい先輩研究者たちの体験談に励まされました。

一 どのようなことが評価されたのでしょうか。

本学の女性研究者支援制度に助けを頂きながら研究者としてステップアップを目指していることを、効果的にアピールできた点が評価されたと感じております。

一 今後の抱負をお聞かせ下さい。

この受賞をスタートラインと位置づけ、いただいた賞に見合うような研究者になれるように努力し続けたいと考えております。また、出産や育児といった女性特有のライフイベントに影響されることなく、研究者としてキャリアを継続し続けることを目指して頑張りたいと思います。